

(二〇一三年) 新春に当たっての所感などを語って頂きました

順不同 敬称略

《私の楽しみ》



上條 哲雄

私が我孫子オーディオファンクラブに入会いたしました3年を経過致しました。今の装置はヤマハのLP、ローレルのプリアンプ、マランツのCD、トリオのチューナー、パイオニアのレーザーディスク、赤井のカセット、2A3・300Bの自作メインアンプ、JBL・パイオニアのスピーカーといったソースラインで有ります。私が聴くのはジャンルに拘らず曲を聴いております。最近ではLPを手に入れたレコード鑑賞に耽り、ポピュラーや歌謡曲をメインに聴いております。特に吉幾三・島倉千代子・都はるみの曲をかけ傍らにはアルコールを置きチビリ・チビリと飲み干しながら音楽を楽しんでおります。子供の勤めの関係で昼間は音を大きく出せないで、子供がいなくなる6時〜8時頃まで音を出して音楽鑑賞(音楽鑑賞といえるかどうか?)をしております。私の音作りに関しては全面的に石井OMの御薫陶を受けると共に、アルコールの方も石井OMの御薫陶を受け楽しんでおります。これからも会員皆様とオーディオとアルコールの話に花を咲かせたいと思っております。

《音楽の楽しみ方はいろいろ》



福林 羊一

我孫子オーディオファンクラブに入会させて頂き音楽の聴き方は色々あるということに気がされました。学生時代はどちらかというと音楽を聴くことより演奏の方が楽しく、また録音した音より実際に演奏して自分で出している音の方が良いはずだと思っていました。ところが、我孫子オーディオファンクラブで色々な音楽を聴いていると、空間に広がる音場を楽しんだり、演奏していると嫌になる押弦時のかすれ音が聴きやすい音になるなど、新たな発見が出来ました。音楽の種類もクラシックだけでなく、オペラ、ジャズ、フュージョン、浪曲、ポップスなど多彩に披露頂き、毎回楽しんでます。やはり音楽というのはいろいろな楽しみ方があり、一つの形にこだわるより新たな発見をしていくことでより深く楽しめるものですね。多彩多芸な会員の皆さんの発表により、今年ほどのような新しい発見や体験が出来るんだらう。新年を迎え、今からすこく楽しみです。

▼ストラディバリウスと一緒に記念撮影▲

《音は音を思わざりけり》

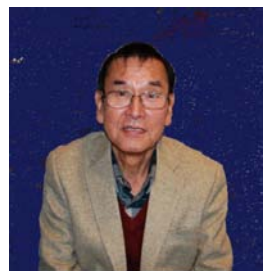


小川 直孝

★ 入会(AAFC)し 後の美音に 比ぶれば音は音を 思わざりけり (藤原敦忠のバクリ) 私が趣味と思っていた音楽オーディオはAAFCの方々に比ぶれば大変狭く浅いものだと分りました。昔は物を思わざりけり、浅狭の私が好きで聴く音楽は限られた作曲家の限られた交響曲を主に協奏曲等を繰り返し聴いておりました。曲選びの基準は音楽の三要素「旋律」「和音」「拍子」のうち旋律を第一に探していたようです。好きな曲も演奏者無視で二十歳までに三〇曲ぐらい確定、その後の三十年間でシューベルトの9番メンデルスゾーンの3番、シベリウスの2番、ドボルザークの8番などが聴く曲に追加されました。二十歳代からアナログ教徒。1980年代にCD教が出現すぐに飛びつき入信2008年までは敬虔なCD教徒。2009年に友に折伏されアナログ教に改宗。ここ三年CD盤をLP盤に変換のため演奏者を考慮しながら御茶ノ水詣です。盤探しは音楽之友社の名曲名盤300(点数ランク付)を参考にしております。この御茶ノ水詣もそろそろ終わりです。これから仕分けの作業に入ります。そんな折先日私がドボルザークの8番の愛聴盤はセル／クレーブランド、ジュリーニ／シカゴだと会員の池田氏にお話したら同氏より、お奨め盤カラヤン／ウイーン、クレーリック／ベルリンの2枚を譲り受けました。名曲名盤300(点数ランク付)によりすると偶然セル／カラヤンが同点1位、ジュリーニとクレーリックが同点7位。早速試聴。カラヤンは予想通り速め、クレーリックもカラヤンに負けずかなり速め、そこで演奏時間を比べるとセル37分23秒、ジュリーニ39分40秒、カラヤン36分37秒、クレーリック35分22秒。結論、私はゆっくり演奏が好きなようです。今は聴く環境もまあこんなもの、好きな曲を好きな時間に聴いております。最期は西行をハクッて一句

★ 願わくば、ころり寝そべり 秋死なむ 我丹精の 音を聴きつつ

《音楽と私》



白澤 幸雄

初めての寄稿ですので、音楽と私を振りかえってみたいと思います。私の音楽との関わりには、大きく分けて3期の転換期があります。第1期は、高校生の時、私にクラシック音楽に興味を抱かせてくれた、生徒会顧問で英語の先生です。先生は、私にクラシックに関心を持たせる為、音楽室で、チャイコフスキーの「ピアノ協奏曲」、モーツアルトの「ピアノ協奏曲第20番」等々先生の好きな曲を自身の恋愛観、人生観共々解説つきでクラシック漬けにさせられました。その結果、クラシックに少し興味を抱きました。第2期は、オーストラリアに出張した際、上司がクラシックファンであったので、シドニーのオペラハウスに行き、岩城宏之のペーターヴェーンの「交響曲第7番」の第4楽章に感動させられクラシックに芽生えました。当時は会社人間で？ 煙草代は一日5箱で千円、一年で三十六万円となり、健康のことも考え煙草を止め、積り預金をし家内からは前借をして、私はトリオのオープンステレオとグラモフォンのCDベストを買いました。第3期は、還暦を迎え関連企業に転職し、「フルトウエングラー」のファンが居り、音楽鑑賞のあとは、熱く語りあい、私も少しずつ洗脳されレコードやCDを収集することとなりました。その後、趣味の範囲での音響機器やレコードやCDを購入して居り現在に至っております。

現在は、例会で皆様のスピーカー、アンプ、音機等の製作発表や作曲家・演奏家等々溢るるレベルの高い発表を毎回楽しみにしております。